

# 元気な農業のために 米価下落に対し支援

**過去最大  
米概算金3400円  
下落**

**市は10㍗当たり  
5800円を支援**

9月、県内に衝撃が走りま  
した。

農協が本年産米1俵(60キ)  
当たりの生産者概算金を決  
定。「まつしぐら」は8千円、  
「つがるロマン」は8200  
円、ともに昨年比マイナス3  
400円と過去最大の下げ幅  
となったのです。

コロナ禍によって外食控え  
が続ぎ、米需要が低迷してい  
ることも要因に。水稻作付面  
積が県内1位の本市。本年産  
主食用の水稻は5550㍗に  
もなりません。市の基幹産業で  
ある農業の中でも水稻は大き  
な割合を占めていますので、  
市の経済にも大きな影響を及  
ぼすことが懸念されていま  
す。

9月10日、市議会では米価

下落対策特別委員会(木村良  
博委員長)を設置。17日に  
は、農業者への支援を市に要  
望。市議会の要望を受け、同  
日、倉光市長は「まつしぐ  
ら」と「つがるロマン」の作  
付け10㍗当たり5800円を  
交付し、農業者を支援するこ  
とを発表しました。

本県では10㍗当たり9万1  
582円の生産経費がかかる  
とされています。「まつしぐ  
ら」の場合、概算金が8千円  
だと、10㍗当たり10俵として  
試算すると、8万円となり、  
生産経費を差し引くと、マイ  
ナス1万1582円となって  
しまいます。市では、このマ  
イナス額の約2分の1となる  
5800円、総額にして3億  
2190万円を支援すること  
を決めました。倉光市長は

「スピード重視で、いち早く  
農家に支援を届けるため、交  
付金で支援する。市としては  
最大限の支援。農家の方々に  
は生産意欲を失うことなく、  
農業を続けてほしい」と思い  
を話しました。

県内の自治体でいち早く支  
援策を打ち出した本市では、  
9月下旬から農家の方々に米  
価下落緊急支援事業交付金に  
ついて通知し、交付していま  
す。申請手続きがまだの方は  
農林水産課水田農業対策係  
☎42・2111(内線324)  
まで。



農家の生産努力の限界を超える米価下落に  
対して支援を要望した木村委員長(9/17)

**国・県にも  
支援を強く要望**

9月30日、倉光市長が東北  
農政局青森県拠点を訪れ、農  
林水産大臣宛ての要望書を木  
村地方参事官に手渡し、米価  
下落を受け7項目を要望しま  
した。木村地方参事官は「預  
かった要望は本省に上申し農  
家の厳しい状況を伝える」と  
話しました。この日、県にも  
3項目を要望しました。

## 国への要望内容

- ①米の直接支払交付金を再交付すること。
- ②ナラシ対策について、加入要件等を緩和し20%以上の米価下落にも対応できる制度に見直すこと。
- ③過去5年の平均収入を基準とする収入保険では、米価下落等が複数年あった場合に補てん金が減少するため特例事項を設けること。
- ④備蓄米の増加など在庫調整を講ずること。
- ⑤非主食用米について、交付金の単価を維持すること。
- ⑥飼料用米の増産が見込まれるため、需要調整を図ること。
- ⑦農家への現金給付を対象とする地方創生臨時交付金を予算化すること。

## 県への要望内容

- ①つなぎ資金に対する利子補給を実施すること。
- ②早急に支援を検討し実施すること。
- ③農家への現金給付を対象とする地方創生臨時交付金の予算化を国に強く要望すること。

※米価下落に関する経営相談  
については6ページに掲載。



東北農政局木村地方参事官に農家の  
窮状を訴えた倉光市長(9/30)

# 高校再編 皆さんはどう考えますか？

県立高校教育改革推進計画第2期実施計画案では、令和5年度から9年度までの期間内に、木造高校の学級数を現行の4学級から1学級減らし、3学級にするとしています。この「1学級減」が与える影響にはどのようなものがあるのでしょうか。

## 木造高校の学級維持と地域を守る会が発足

10月1日、「木造高校の学級維持と地域を守る会」が設立し決起集会を開催しました。

会場の松の館には、市や市議会、木造高校同窓会、商工会、PTAなど関係者約130人が集まりました。

発起人代表の川嶋大史さんは「この1学級減が、さらなる学級減、そして統合への道へと進む。将来、西つがる地域から高校が無くなる懸念がある」と危機感を訴えました。

会長に就任した倉光市長は「木造高校が無くなってしまつと、関係人口や交流人口が減り、必ず市の活気がなくな



1学級減に断固立ち向かうことを来場者と共有しガンバロー三唱

る。元気な市であるためにはどうしても木造高校を残したい」と述べ「地域の活性化を維持するために皆さんと一緒に戦いたい」と語気を強めました。

決起集会では、県が進めている地域振興、人口減少対策の視点を踏まえた実施計画を策定するよう要望することを決議しました。

## 魅力ある学校の 衰退を懸念

人気が高い木造高校の1学級減は、入学を志望する生徒の夢を奪うことにつながると訴える同会。

下の表は、4〜5学級規模と2〜3学級規模の科目と部活動の状況を表したもので、特に部活動数では倍以上の開きがあります。文武両道を校風とする木造高校。勉強と部活動を両立するために志望する生徒も多く、部活動数が減ってしまうと、その希望に沿えなくなってしまう懸念も。

本県の学校規模による科目・部活動の設置状況

	2学級～ 3学級規模	4学級～ 5学級規模	現在の木造高校 (4学級)
社会科の 平均科目数	5.2 科目	7.5 科目	12 科目
理科の 平均科目数	6.2 科目	8.5 科目	13 科目
運動部の 平均部活動数	6.7 部	13.5 部	13 部
文化部の 平均部活動数	4.5 部	10.0 部	11 部

※県高校教育改革推進計画基本方針を基に作成

## 実施計画案のなぜ

同会では実施計画案に対し、疑問点を指摘しています。

◆木造高校の過去5年間の第1次進路志望調査では平均倍率が1・17倍と西北地域では最も高い値。どうして定員割れとなっている他の高校は学級維持するのか。

◆市の人口減少を1学級減の要因としているが、生徒の6割以上は市外からの入学生が占める。



実施計画案には到底納得できないと話す川嶋発起人代表

生徒の募集定員が減ると教員数も削減されます。総合学科の木造高校は幅広い選択科目と、きめ細かい少人数制の授業を特徴としています。教員が減り科目も減ると、生徒の選択希望に十分に答えられなくなってしまう、今の充実した教育環境が損なわれてしまう恐れがあります。

## 3度目の県への 要望活動

9月22日、倉光市長は、木造高校の学級規模を維持することなどを求める嘆願書を和嶋延寿県教育長と三橋一三県議会議長に手渡し、地元の声をお届けしました。



和嶋県教育長(左)に嘆願書を手渡す倉光市長